

ニーズ提供者の情報

| | | |
|-----|---|-----------------------------------|
| 組織名 | 兵庫県新産業課、公益財団法人新産業創造研究機構(NIRO) | |
| 住所 | 【兵庫県】兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10-1 【新産業創造研究機構】兵庫県神戸市中央区港島中町6丁目1 | |
| 属性 | <input checked="" type="checkbox"/> 地方自治体 | <input type="checkbox"/> 地方独立行政法人 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 非営利法人 | <input type="checkbox"/> 営利法人(企業) |
| | <input type="checkbox"/> その他() | |

ニーズの概略

| | | | |
|------------|--|---|---|
| 解決したい課題の分野 | <input checked="" type="checkbox"/> 水産（漁船漁業） | <input checked="" type="checkbox"/> 水産（養殖業） | <input type="checkbox"/> インフラ管理 |
| | <input type="checkbox"/> 洋上風力発電 | <input checked="" type="checkbox"/> 環境・海洋ごみ | <input type="checkbox"/> 観光・教育 |
| | <input type="checkbox"/> 災害対策 | <input type="checkbox"/> 離島物流 | <input type="checkbox"/> その他 () |
| 何をしたいか | <input checked="" type="checkbox"/> 画像・動画撮影 | <input checked="" type="checkbox"/> 計測・診断 | <input checked="" type="checkbox"/> 採捕・採取 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> モニタリング | <input type="checkbox"/> 運搬 | <input type="checkbox"/> 清掃 |
| | <input type="checkbox"/> その他 () | | |
| 得たい効果 | <input checked="" type="checkbox"/> 業務効率化 | <input checked="" type="checkbox"/> 業務コスト低減 | <input type="checkbox"/> 危険業務回避 |
| | <input type="checkbox"/> 業務高度化 | <input type="checkbox"/> 新規事業創出 | <input checked="" type="checkbox"/> 精度向上 |
| | <input type="checkbox"/> 脱炭素等の環境対応 | <input type="checkbox"/> その他 () | |

海の次世代モビリティを求める背景・ニーズ

【ブルーカーボン】

- 近年、海藻・海草などの海洋生態系におけるブルーカーボンが地球温暖化対策のCO2吸収源として期待されている。
- このブルーカーボンのクレジット化の取り組みが、兵庫県内のNPO団体等において盛んになっており、藻場の面積を正確に把握することが求められている。
- また、兵庫県としても、環境保全や漁業振興の観点で、海域全体の藻場の面積を把握したいというニーズがあり、衛星写真のマクロデータと潜水して取得したマイクロデータを統合して、藻場の面積推定の精度を上げたいと考えている。
- しかし、藻場の面積の把握には潜水士による調査が必要であり、カーボンクレジット化や広域調査にコストがかかってしまうことが課題である。

【環境モニタリング】

- 栄養塩類の減少が漁業の生産量が減っている原因となっており、栄養塩類や水産生物を増やすための取り組みを実施しているため、水質や底質等、海洋環境のモニタリングを行い取り組みの結果を評価する必要がある。
- 湾内・港内において、海水の交換の状況や溶存酸素を把握したい。海水交換型の防波堤が全国で設置されている中、港湾内の溶存酸素や塩分濃度を連続的に把握することができれば、防波堤の効果検証が可能になる。

【その他】

- 漁港の老朽化・津波対策の基準を満たしているかどうかの確認を、海の次世代モビリティを活用して実施したい。

求める技術とスペック

【ブルーカーボン】

- 藻場の把握に活用する場合、海藻の種類と面積・被度に加え、湿重量のサンプリングが同時にできるとコスト削減につながる。

【環境モニタリング】

- 海底の泥のサンプリングをダイバーが潜水することなく、実際の海底の映像を見ながら採取したい。
- 定点で行っている成分分析を自動船でサンプリングできるようになると調査の負担が軽減される。
- 水中ドローンを活用して湾内・港内の溶存酸素や塩分濃度の連続的なデータを測定し、海水交換がなされているかを確認したい。
- かいぼりや海底耕うん、海への肥料投入などの局所的な栄養塩類供給の取組について、狭い範囲を連続観測することにより栄養塩類濃度化を把握したい。

【その他・技術課題等】

- 潮の流れが速い場所では、水中ドローンが流されてしまう点が、課題だと認識している。現状では位置情報が把握できないために、流れのない湾内やダムでの活用に限定されてしまう。
- 小型化・操作性の向上が進むと、汎用性が高くなり、利用者が増えることで、コスト削減につながるのではないか。